

自助・・・自らの命は自ら守る！

このチラシの表題にもある「自助」は、まさに自らの命は自ら守ることです。今年の防災講演会は、地域づくりと合同で、10月27日に下呂交流会館にて、山口大学の瀧本浩一（たきもと こういち）先生をお迎えし、「地域力で災害を乗切る」と題して講演いただきました。



瀧本浩一山口大学大学院准教授

この啓発チラシでもお知らせしてきましたが、大規模な災害が発生したときに、頼りになるのは「自助」「共助」と、その大切さを訴えてきました。

しかし、瀧本先生からは、これまでの阪神・淡路大震災や今年の熊本地震でも、「地震の犠牲数の大半は最初の一撃で生じる」とお話があり、阪神・淡路大震災では6,400人余りの死者の内、約4,000人が窒息、圧死であり、熊本でも50人の内、窒息、圧死が30人と、耐震性のない家屋の倒壊や、固定されていない家具などの下敷きになって命を失っている、とのお話がありました。

共助で助けられる前に、既に大切な命が失われてしまっていてはどうすることもできません。

講演会で瀧本先生からは、防災対策の大切さはわかっているが、日々の生活に忙しく、人は面倒くさがり屋。だから防災意識も高まらないし、防災活動もしないとのことでした。

では、どうしたらよいのでしょうか。今回の講演会は、地域づくり・防災講演会として開催されました。防災や災害が発生した場合に、それらを乗り越える力は正に地域力です。それには普段からの近所付き合いであり、地域行事への参加など地域コミュニティが大切です。

地域には、ゴミ出しなどにルールがあるように、地域で防災に取り組むルール作りについて、瀧本先生からは、例えば地震対策として有効な家具転倒防止の普及、推進戦略として、地域の運動会やお祭りの景品に防災グッズを配ったり共同購入したりするなど地域で取り組む仕組みや、家庭にあっては、家庭を切り盛りする主婦がキーパーソンであり、女性の視点から家具の固定や備蓄を主婦に呼びかけるなどのお話がありました。

「防災」が「まちづくり」をするのではなく、「防災」を「まちづくり」で（が）する、とのお話が印象的でした。

